

財団法人日本アレルギー

協会関東支部

〒102-0074

東京都千代田区九段南 4-5-11

富士ビル4階

TEL 03-3222-3437

FAX 03-3222-3438

ホームページ

[http://www.jaanet.org/aboutus/4\\_index](http://www.jaanet.org/aboutus/4_index)

msg.html

関 東 支 部

だ よ り

第 6 号 ( 2009 年 6 月 発行 )

1. 財団法人日本アレルギー協会の公益法人化と新理事選挙について

支部長

以下は先日正会員にお送りした投票依頼書とほぼ同じですが若干の追加(太字)があります。

昨年の12月1日に公益法人関連3法が施行され、これまでの法人は一旦、特例民法法人となり、現在の形態のまま5年間存続できますが、平成25年(2013年)11月末日までに新法による法人に移行しなくてはなりません。

(財)日本アレルギー協会は新しく制定された法人制度にもとづき、公益財団法人、一般財団法人のうち公益財団法人(公益性を十分発揮する必要があるが、一方、当財団への寄付者に対し課税控除あり)として早速、申請することになりました。その際、規定により理事の数を減らす必要があります。さる5月29日に開催された理事会の決定により新たに理事を選出することになりました。今回選出する「公益財団法人申請のための理事」は新法人移行後の理事に就任することになります。現理事はそれまでの任期となります。関東支部の現理事数は8人ですが、新理事数は4人となります(再選は可能です)。支部長は各支部新理事から、理事長は全理事のなかから選**ばれます**。各支部の新理事数、全理事数は次頁の表の通りです。理事の選出にあたり、支部および評議員の意見が取り入れられ、正会員を選挙人とする互選となりました。

関東支部ではこれまで評議員を正会員の互選で選出し、理事を幹事会員(理事、評議員、幹事)

で互選していましたが、今回より正会員で理事を互選することになります。現在「4名連記法、6月27日(土)までに投函」にて選挙中です。結果は各会員に通知されます。なお、新評議員は新理事選出後に同様形式で選出の予定です。

### 新理事定数の配分

	現在の定数	個人会員数	%	新配分数
北海道支部	2	69	6.9	1
東北支部	3	147	14.7	2
北関東支部	2	45	4.5	1
関東支部	8	283	28.4	4
東海支部	2	76	7.6	1
北陸支部	2	24	2.4	1
関西支部	7	152	15.2	2
中国支部	3	79	7.9	1
四国支部	2	42	4.2	1
九州支部	3	80	8.0	1
本部枠(医師会、患者会、経済界、報道)	6			2
合計	40	997		17

個人会員数は、平成21年3月31日現在

### 本号の目次

1. 財団法人日本アレルギー協会の公益法人化と理事選挙について 支部長
2. (財)日本アレルギー協会後援の講演会(山梨、長野県を含む関東地区 2009年7月~12月)
3. 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会
4. 患者団体講演会、集会(山梨、長野県を含む関東地区 2009年7~12月)
5. 第21回日本アレルギー学会春季臨床大会の講演から 編集部

## 2.(財)日本アレルギー協会後援の講演会(山梨、長野県を含む関東地区 2009年7月~12月)

会名	会期	会場	担当施設・連絡先	会長
第3回相模原臨床アレルギーセミナー	8月7日(金)~9日(日)	パシフィコ横浜アネックスホール F201-F204	国立病院機構相模原病院臨床研究センター 谷口 正実 TEL:042-742-9721	秋山一男

## 3. 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会(\* 関連学会)

### (山梨、長野県を含む関東地区 2009年7月~12月)

以下は社団法人日本アレルギー学会の許可を得て、同会誌「アレルギー」2008年12月号(57巻12号)1376-1382頁、会報「専門医制度情報 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会開催予定(2009年・国内)より山梨、長野県を含む関東地区7月~12月分を抜粋して転載した。なお、同号で(未定)となっていた部分は、当方より問い合わせた上で判明した場合、補充した。

回	会名	会期	会場	担当施設・連絡先	会長
84	臨床免疫セミナー	7月3日(金) 18:30~20:45	新宿ワシントンホテル3F 「高尾」	国立病院機構相模原病院臨床研究センター (担当世話人 森 晶夫) 神奈川県相模原市桜台 18-1	野間 剛 (北里大学医学部小児科)
30	臨床アレルギー懇話会	7月9日(木) 18:30~20:00	東京慈恵会医科大学大学1号館5階講堂(予定)	東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科 (松脇由典) 東京都港区西新橋 3-19-18 TEL: 03-3433-1111	桑野和義 03-3433-1111
30	日本炎症・再生医学会 (第9回国際炎症学会7月6日(月)~10日(金)合同開催)	7月9日(木) ~10日(金)	京王プラザホテル	(事務局) 日本コンベンションサービス(株)メディカルカンパニー 東京都千代田区霞ヶ関 1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル 18F TEL: 03-3508-1214	山本一彦 (東京大学大学院アレルギー・リウマチ学教授)
14	日本ラテックスアレルギー研究会	7月26日(日) 9:00~16:30	国立成育医療センター講堂	国立成育医療センター総合診療部(赤澤 晃) 東京都世田谷区大蔵 2-10-1 TEL: 03-3416-0181	斎藤博久
17	城東地区小児アレルギー懇話会	7月(未定)	(未定)	同愛記念病院小児科 東京都墨田区横網 2-1-11	向山徳子 03-3625-6381
36	日本アレルギー学会専門医教育セミナー	8月30日(日)	総評会館(東京)	日本アレルギー学会事務所 東京都文京区本郷 1-35-26 石水ビル 7F	03-3816-0280
8	千葉県喘息吸入療法研究会	9月10日(木) 19:00~21:00	京成ホテル ミラマーレ	千葉大学大学院医学研究院遺伝子制御学(中島裕史) 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 TEL: 043-226-2197	富岡玖夫

55	関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会	9月13日(日) 14:00~17:00	日本教育会館(東京)	聖路加国際病院耳鼻咽喉科 東京都中央区明石町9-1	今井 透 03-3541-5151
34	埼玉喘息・アレルギー研究会	9月26日(土) 14:40~18:25	埼玉県県民健康センター	埼玉医科大学呼吸器内科 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	永田 真 049-276-1111
25	多摩小児アレルギー臨床懇話会	9月26日(土) 15:00~18:00	日本医科大学附属多摩氷山病院 C棟2階集会室	山口小児クリニック 東京都町田市野津田町1364 TEL: 042-736-1121	飛田正俊
16	城東ブロックアレルギー懇話会	9月10日(木) 19:00~21:00	東武ホテルレバント東京4F 「錦の間」	宮本クリニック(宮本康文) 東京都江東区東陽4-6-1 三共商会ビル6F1号室 TEL: 03-5633-7065	馬場 実
12	埼玉小児アレルギー研究会	10月8日(木) 19:00~21:00	パレスホテル大宮	大宮医師会市民病院さいたま市小児救急医療センター 埼玉県さいたま市北区宮原町2-125-16	安田 正 048-665-6511
28	信州免疫アレルギー懇話会	10月23日(金) 17:00~20:00	信州大学医学部 附属病院東病棟 9F会議室	信州大学医学部保健学科生体情報検査学講座 長野県松本市旭3-1-1	(代表世話人) 高 昌星 0263-37-2388
4	城南小児アレルギー懇話会	10月1日(木) 19:00~21:00	目黒雅叙園	(財)東京都保健医療公社荏原病院小児科 東京都大田区東雪谷4-5-10	松井猛彦 03-5734-8000
12	小児吸入療法フォーラム	10月(未定)	(未定)	国際医療福祉大学附属三田病院小児科 東京都港区三田1-4-3	(代表) 増田 敬 03-3451-8121
31	臨床アレルギー懇話会	11月5日(木) 18:30~20:00	東京慈恵会医科大学 大学1号館5階講堂(予定)	東京慈恵会医科大学眼科 (酒井 勉) 東京都港区西新橋3-19-18 TEL: 03-3433-1111	桑野和義 03-3411-1111
37	*日本臨床免疫学会総会	11月13日(金) ~15日	東京ステーション コンファレンス	筑波大学大学院人間総合科学研究科疾病制御医学専攻臨床免疫学 茨城県つくば市天王台1-1-1	住田孝之 029-853-3221
	東京ロイコトリエン研究会2009	11月14日(土) 16:00~18:00	ホテルニューオータニ「鶴西の間」	新橋アレルギー・リウマチクリニック 東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル318	宮本昭正 03-3591-5464
27	呼吸器免疫シンポジウム	11月21日(土)	トップオブスクエア(大手町) 千代田区大手町1-5-1	昭和大学医学部呼吸器・アレルギー内科 東京都品川区旗の台1-5-8	足立 満 03-3784-8661
64	臨床アレルギー研究会(関東)	11月28日(土) 13:00~	富国生命ビル 28F会議室	(未定)	(未定)

13	アレルギー・気道上皮細胞研究会	12月19日(土) 10:00 (予定)	シエーンバ ッ ハ・サポー	帝京大学医学部付属溝口病院第 四内科(大林 馬場) 神奈川県川崎市高津区溝口 3-8-3	福田 健 (獨協医科大 学)
	山梨吸入療法研究会	(未定)			

#### 4 . 患者団体講演会、集会 (山梨、長野県を含む関東地区 2009年7~12月)

会員以外の方でも自由に参加できます

日時	会名	会場	主催団体、連絡先
7月5日(日) 13:00~16:00	第11回エパレクオープン セミナー： 「食物アレルギーとぜん そく」田知本 寛(小児科) 「ぜんそくと自己管理」須 甲 松信(内科) 質疑とパ ネルディスカッション	港区高輪区民センターホール 地下鉄南北線・三田線「白金高 輪」駅下車、1番出口 (駅の真上です。)	NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患 者を守る会(通称：エパレク)事務局 (事前申込：必要) <a href="http://eparec.com/">http://eparec.com/</a> E-mail : <a href="mailto:eparec@nifty.com">eparec@nifty.com</a> TEL 03-6804-4161
10月10日(土) 12:30~16:30	秋の講演会 (テーマ予定：小児・食物 アレルギー、成人・インフ ルエンザとぜんそく) 予定	神奈川県障害者職業能力開発 校ホール 小田急線「小田急相模原」駅下 車徒歩15分(相模原病院裏)	国立病院機構相模原病院 アレルギーの会 (事前申込：必要) <a href="http://allergy-net.web.infoseek.co.jp/kanja/">http://allergy-net.web.infoseek.co.jp/kanja/</a> E-mail: <a href="mailto:allergy-net@jcom.home.ne.jp">allergy-net@jcom.home.ne.jp</a> 事務局 TEL 080-4075-5723 (北島)
11月7日(土) 13:00~17:00	講演会： 基調講演：「正しく知ろう 子どものアレルギー」 シンポジウム：「学校での アレルギー児のサポート 充実に向けて」西間三馨 (小児科) 海老澤元宏(小 児科) 文部科学省学校健 康教育課専門官(予定) 神奈川県教育委員会(予 定) 養護教諭、園部まり 子	旭公会堂(横浜市旭区) 相鉄線「鶴ヶ峰」駅下車徒歩7 分	NPO 法人アレルギーを考える母の会 FAX 045-362-3106 ( <a href="http://allergy.hahanokai.jp/">http://allergy.hahanokai.jp/</a> ) ホームページ開設準備中 E-mail: <a href="mailto:m-sonobe@cf6.so-net.ne.jp">m-sonobe@cf6.so-net.ne.jp</a>

11月頃(予定) 13:00~18:00	専門家と熟練患者(EP)が 答える大相談会	港区赤坂コミュニティぱら ざ内 赤坂区民センターホー ル	NPO法人環境汚染等から呼吸器病患 者を守る会(通称:エパレク)事務局 (事前申込:必要) <a href="http://eparec.com/">http://eparec.com/</a> E-mail: <a href="mailto:eparec@nifty.com">eparec@nifty.com</a> TEL 03-6804-4161
11月頃(予定)	(仮)講演会とQ&A	東医健保会館(東京都新宿区) JR「信濃町」駅下車徒歩5分	NPO 法人日本アレルギー友の会 TEL 03-3634-0865(毎週火・土曜日 11:00~16:00) FAX 03-3634-0850 <a href="http://www.allergy.gr.jp/">http://www.allergy.gr.jp/</a> E-mail: <a href="mailto:j-allergy@nifty.com">j-allergy@nifty.com</a>
毎月第2土曜日 13:00~17:00 (月によって変更の場合が ありますので、参加希望の 方は事務局までご連絡く ださい)	ぜん息学習会	港区高輪コミュニティぱら ざ内3階 高輪区民センター 地下鉄南北線・三田線「白金高 輪」駅下車、1番出口 (駅の真上です。)	NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患 者を守る会(通称:エパレク)事務局 (事前申込:必要) <a href="http://eparec.com/">http://eparec.com/</a> E-mail: <a href="mailto:eparec@nifty.com">eparec@nifty.com</a> TEL 03-6804-4161
毎月第3土曜日(祝日を除 く) 13:00~15:00	患者交流会(ぜんそく・ア トピー性皮膚炎) 当会ベテラン患者相 談員が相談に応じま す。	NPO 法人日本アレルギー友の 会事務所(都営新宿線・半蔵門 線住吉駅、JR 錦糸町駅より都 バス「住吉駅前」下車徒歩3分)	NPO 法人日本アレルギー友の会 TEL 03-3634-0865(毎週火・土曜日 11:00~16:00) 要予約 FAX 03-3634-0850 <a href="http://www.allergy.gr.jp/">http://www.allergy.gr.jp/</a> E-mail: <a href="mailto:j-allergy@nifty.com">j-allergy@nifty.com</a>
毎月第4火曜日(祝日も開 催) 10:00~12:30	アレルギー相談・患者交流 会 「ちょっと chat の会」 どなたでもお気軽に。出入 り自由です。	神奈川県民センター 15階セル フヘルプ相談室1 (「横浜」駅西口徒歩5分 横 浜市鶴屋町2-24-2) TEL045-312-1121(内 3501) FAX 相談 045-312-6307 (事前申込:不要)	NPO 法人アレルギーを考える母の会 FAX 045-362-3106 ( <a href="http://allergy.hahanokai.jp/">http://allergy.hahanokai.jp/</a> ) ホームページ開設準備中 E-mail: <a href="mailto:m-sonobe@cf6.so-net.ne.jp">m-sonobe@cf6.so-net.ne.jp</a>
毎月1回・不定期 (HPでお知らせします) 9:30~11:30	しゃべり場/自由が丘: 入退場は自由。初歩的質 問、大歓迎です。	目黒区緑ヶ丘文化会館第2研 修室(変更あり)	NPO 法人アレルギー児を支える全国 ネット「アラジーポット」 <a href="http://www.allergypot.net">http://www.allergypot.net</a> TEL090-4728-5421 (事前申込:不要) E-mail: <a href="mailto:info@allergypot.net">info@allergypot.net</a>

## 5. 第21回日本アレルギー学会春季臨床大会の講演から

編集部

第21回日本アレルギー学会春季臨床大会(テーマ:患者と地球に優しい医療)は本年6月4~6日の3日間、岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学 近藤直実教授主催のもと、長良川河畔の長良川国際会議場および隣接の岐阜都ホテルにて盛大に開催された。会長公演、特別講演9、招請講演7、教育講演11、シンポジウム12、教育セミナー15、イブニングシンポジウム8、禁煙セッション1、Pro・Con デイベート1、ミニシンポジウム123題、一般演題238題と極めて内容豊富な学会であった。全部を網羅できないので、アレルギー疾患特に喘息、花粉症治療に関連深い点を記す。

### 1. Stephen Holgate 教授の講演から

Holgate 教授(英国)は特別講演「喘息の起源と病態についての再考」およびシンポジウム「重症喘息の病態と患者に優しい治療とその開発」中の「重症喘息進行の起源」の2回講演し、ここ数年喘息の成立機序について提唱して傾聴すべき説を説明し、治療との関係を述べた。

#### アトピーと喘息

喘息を理解する上で非常に重要な点は内因性喘息(非アレルギー性喘息)と外因性喘息(アレルギー性喘息)の病理的所見、症状に相違点がないことである。すなわち、リモデリングはアトピー素因と関係なく起きると思われる。また、アトピー(IgE抗体産生現象)は人口の約半数にみられるが、その大多数は喘息を発症しない。すなわち、喘息とアトピーは並列関係にあるが同一ではない。

#### 抗サイトカイン抗体などによる喘息治療の効果

従来、喘息をはじめアレルギー疾患の成立に Th2 優位の免疫学的機序が重視されてきた。喘息では IgE 抗体産生に關与する IL-4、IgE 抗体産生および気道過敏性に關与する IL-13、好酸球の骨髓から組織への移動、好酸球の寿命延長、活性化に關与する IL-5 などの Th2 産生サイトカインに注目しこれに対するヒト化モノクローナル抗体あるいは、これらサイトカイン受容体に対するモノクローナル抗体による喘息治療は大いに期待を集めたが、みるべき効果はなかった。また難治関節リウマチに劇的效果をおさめつつある抗 TNF- も喘息には効果がなかった。T 細胞に対する抗体や免疫抑制剤も効果がなかった。以上のようにアレルギー的機序を構成するサイトカインの作用を阻止しても喘息は改善しない。比較的最近の臨床研究で明確な効果を示されたのはロイコトリエン受容体拮抗薬と抗 IgE 抗体である。ただし、Holgate 教授によって紹介されたように、最近、抗 IL-5 モノクローナル抗体 Mepolizumab 投与はステロイド内服にもかかわらず、喀痰好酸球増多と症状を示す難治性喘息でステロイド減量効果があったと報告されている(P. Nair, SA. Antoniu ら)。

#### ステロイドと喘息の自然経過

一方ステロイドは強力な抗炎症作用により喘息発作の発症を抑制するが、小児喘息において(成人喘息においてもおそらく大部分で ---筆者)中止すれば気道過敏性は再び亢進し、喘息が再発する。従って喘息におけるアレルギー的機序は重要ではあるが、もっと根本的機序を求める必要がある。

#### 喘息における気道上皮細胞のバリアー機能低下とアトピー性皮膚炎の皮膚との共通点

喘息患者に共通して、気道上皮細胞が種々の環境因子に対し傷害を受けやすく、傷害を受けた上皮細胞よりさまざまな信号が出て上皮の間葉組織に影響を与え、炎症を拡大している。生検組織でも培養組織でも喘息患者の気道上皮細胞間 tight junction(緊密結合)の形成が減弱している。すなわち、バリアー機能が低下している。また、喘息患者の気道上皮細胞はオキシダントにより傷害を受けやすく、さらにウイルス感染の際インターフェロン(IFN-)を産生できない。慢性喘息にみられる慢性炎症や組織構造の変化(アレルギー感作を含む)は気道上皮細胞の機能異常によるもので頻回の環境因子による傷害によって慢性傷害反応が生ずる。このように気道上皮と間葉組織とを一体化して見る概念として同教授は epithelial-mesenchymal trophic unit (EMTU) という用語を用いている。生物作用を持つアレルギー、大気汚染物質、

タバコの煙、ウイルスなどはこの EMTU を介して喘息の発症と慢性化をもたらし、さまざまな喘息のタイプを形成している。アトピー性皮膚炎においても同様に皮膚上皮のバリアー機能低下が認められており、バリアー機能に關与するフィラゲリンの産生遺伝子塩基配列に正常との違いが報告されている。

#### この説の意義

気道上皮細胞のバリアー機能障害の改善は新たな治療法開発の標的となるだろう。

かなり以前、気管支喘息患者の気道上皮にバリアー機能障害があるのではないかという説が提唱されたことがあったが、当時は十分な根拠がないままになっていた。今日 Holgate 教授により新たに提唱され、バリアー機能低下の実体が明らかにされつつあることは大きな意義を持つ。

## 2. 喘息に対する抗 IgE 療法

### 原理と特徴

ヒト化モノクローナル抗 IgE、Omalizumab (オマリズマブ) は IgE 分子第 3 ドメインにあって肥満細胞や好塩基球と固着するエピトープに対する抗体である。従って、この抗 IgE を患者に投与しても、遊離 IgE のみと反応し、上記細胞を活性化してアレルギー反応を起こすことはない。

### 効果

Holgate 教授 (英国)、Bousquet 教授 (フランス) ほかのグループを中心に広範囲の臨床試験が行われ、その結果、血中の遊離 IgE が 95% 以上減少し、気管支組織好酸球、T 細胞、B 細胞も減少した。中等症、重症の喘息患者で急性増悪の頻度が減少し、吸入ステロイド、 $\beta_2$  刺激薬の減量効果があり、QOL の改善がみられた。わが国でも試験がおこなわれ、好結果を得て本年 3 月より発売となった (商品名ゾレア)。

本春季臨床大会のイブニングシンポジウム 1 で Kenneth R. Chapman 教授 (カナダ)、相良博典先生、シンポジウム 8 で鈴木直仁先生による講演があった。

### 使用方法

発売元のノバルティスファーマ社より「ゾレア<sup>®</sup> 皮下注用治療指針」(秋山一男先生ほか監修) が出されている。血清中 IgE 濃度と体重を加味した抗 IgE 使用量が定められる。体重 60kg までの患者は血中総 IgE 濃度/ml が 700 国際単位までの場合に使用可能で、体重が大きいと制限 IgE 濃度は低くなる。2~4 週間間隔で 16 週間使用し、効果を評価して効果あれば持続する (国内では 48 週、海外では 4 年間実施されており、それ以上の長期投与時の安全性は確立されていない)。

### 適応

適応は高用量の吸入ステロイド薬及び複数の喘息治療薬を併用しても症状が安定せず、通年性吸入抗原に対して陽性を示し、体重及び初回投与前血中総 IgE が投与量換算表で定義される基準を満たす場合である。基準を満たせば、これまでの薬剤に本剤を追加投与する。

### 副作用

副作用は殆ど一過性の弱い局所反応であるが、海外では 1000 人に約 1.3 人の割合でアナフィラキシーがおきているので、注意が必要である。(この反応はわずかに残るマウス成分に対する反応かも知れない)。

本邦の試験の際、あらかじめ皮膚反応を行い陽性の人には使用しなかったそうである。

### 問題点

非常に期待される療法であるが高価である点が問題となる。血中 IgE 濃度の高い人には使用できない。使用範囲を広げ得るかが今後の課題である。

## 3. 花粉症に対する舌下免疫療法

アレルギー液を舌下に入れる舌下免疫療法は既にヨーロッパでダニ、花粉アレルギー液を用いて広く行われている。この療法は従来の皮下免疫療法に比較して効果が弱いがあナフィラキシーなど重篤な副作用がなく、家庭で行える利点がある。この療法に関し、本大会シンポジウムで後藤 穰先生が講演された。二重盲検法で花粉量の多い年にプラセボに比し症状スコアが著明に低かった。わが国では舌下免疫療法に使用する専用アレルギー液がなく、皮下注射液が用いられている。この療法は今のところ認可されていない。